

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和4年4月19日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立長南中学校 第3学年、全生徒

実施生徒数（56人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語、算数・数学及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりとする。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

ウ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととし、出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国と比べて上位層が少なく、中位層・下位層に多い。
平均正答率（本校 58／泉佐野市 63／大阪府 67／全国 69.0）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
○聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することに課題がある 1一 スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す (60.7/74.7)	○場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることに課題がある 3三 話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える (50.0/62.0)
○自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す問題に課題がある 1三 スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く (33.9/51.8)	○場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する問題について課題がある 3四 「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く (53.6/73.8)
○文脈に即して漢字を正しく書くことは概ねできている 2二① 漢字を書く（ <u>のぞく</u> ） (80.4/82.1) 2二② 漢字を書く（ <u>よろこんで</u> ） (82.1/80.5)	○漢字の行書の読みやすい書き方について理解するは概ねできている 4二 最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する (87.5/90.1)
○自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある 2三 農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える (33.9/46.5)	○漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する問題に課題がある 4三 書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する (57.1/81.1)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか	72.5	61.9	○	10.6
国語の勉強は大切だと思いますか	98.3	93.2	◇	5.1
国語の授業の内容はよく分かりますか	81.0	80.4		0.6
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.3	89.0	◇	2.3

- 話の展開をとらえて内容を把握することに課題がある。
- 選択肢がある問題では、6問中4問が無回答率（0.0%）となっており、書き取り問題と比べて、解答しようという傾向がある。
- 自分の考えが伝わるように、根拠（理由）を明確にして書くことが苦手である。
- 漢字の読み書きでは、授業での漢字テストや定期テストに向けての学習の成果につながっている。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（数学）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国と比べて上位層が少なく、下位層に多い。

平均正答率（本校 37／泉佐野市 45／大阪府 51／全国 51.4）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

数学	特徴がみられた設問
<p>○ 自然数を素数の積で表すことは、概ねできている</p> <p>1 42を素因数分解する (58.9/52.2)</p> <p>○ 簡単な連立二元一次方程式を解くことに、課題がある</p> <p>2 連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$ を解く (48.2/74.5)</p> <p>○ 反例の意味を理解することに課題がある</p> <p>3 ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ (33.9/44.9)</p> <p>○ 一次関数の変化の割合の意味を理解することに課題がある</p> <p>4 変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ (16.1/37.9)</p> <p>○ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある</p> <p>6(2) 差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する (30.4/48.7)</p>	<p>○ データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある</p> <p>7(1) コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する (28.6/44.0)</p> <p>○ 箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることに課題がある</p> <p>7(2) 箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ (26.8/44.1)</p> <p>○ 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることに課題がある</p> <p>8(1) 与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く (35.7/54.6)</p> <p>○ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある</p> <p>8(2) 目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する (17.9/38.4)</p> <p>○ 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することの無解答率に課題がある</p> <p>9(2) $\angle ABE$と$\angle CBF$の和が30°になる理由を示し、$\angle EBF$の大きさがいつでも60°になることの説明を完成する (62.5/38.5)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
数学の勉強は好きですか	62.0	58.1		3.9
数学の勉強は大切だと思いますか	89.6	86.6		3.0
数学の授業の内容はよく分かりますか	82.7	76.2	◇	6.5
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	75.8	76.5		0.7
数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	44.9	47.3		2.4
数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	84.5	75.2	◇	9.3
数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	77.6	70.2	◇	7.4
数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	86.2	79.6	◇	6.6

○授業において、前向きに取り組み、理解するものの定着できていないところに課題がある。

○基礎的な問題でも、複数の操作があるとできない傾向がある。

○式や表を関連付けて考えたり、表からデータの傾向を読み取ったりすることに課題がある。

○学習状況調査において、多くの項目に関して全国を上回っている。しかし、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」の2項目については、昨年度が例年に比べ高かった（R3、各90.9、61.8）こともあるが、大きく下がるとともに全国より下回るなど課題がある。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国と比べて上位層が少なく、中位層・下位層に多い。
平均正答率（本校 38／泉佐野市 42／大阪府 47／全国 49.3）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

理科	特徴がみられた設問
<p>【「エネルギー」を柱とする領域】</p> <p>○日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用することに課題がある</p> <p>1（1）日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する（23.2/44.2）</p> <p>○課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能を身に付けることにおいて課題がある</p> <p>5（2）「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する（33.9/45.0）</p> <p>○考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみることに課題がある</p> <p>5（3）考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する（26.8/43.3）</p> <p>【「地球」を柱とする領域】</p> <p>○飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみることに課題がある</p> <p>2（3）上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する（17.9/28.5）</p>	<p>○過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみることに課題がある</p> <p>6（2）陸上のB地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する（39.3/60.3）</p> <p>【「粒子」を柱とする領域】</p> <p>○実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみることに課題がある</p> <p>7（2）吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する（39.3/60.3）</p> <p>【「生命」を柱とする領域】</p> <p>○アリの行列の作り方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことに課題がある</p> <p>8（1）アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する（32.1/55.2）</p> <p>○予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことに課題がある。</p> <p>8（2）予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する（26.8/55.1）</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は好きですか	67.2	66.4		0.8
理科の勉強は大切だと思いますか	74.2	76.8		2.6
理科の授業の内容はよく分かりますか	70.7	75.2		4.5
理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	41.4	52.7	○	11.3
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	51.8	61.5	◇	9.7
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思えますか	19.0	22.1		3.1
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	48.3	64.5	○	16.2
理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか	67.3	78.9	○	11.6
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	63.8	68.1		4.3

○「理科の勉強は大切だと思いますか」での生徒の割合は全国とあまり差がなかった反面、「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」での生徒の割合が、全国と比べて低い割合であることは課題である。

○学力状況調査から、記述式の設問において正答率及び無回答率に課題がある。

○前回の調査（平成30年度（2018年度））から、学習状況調査の全項目で、肯定的意見の割合の全国平均との差が少なくなった。特に「理科は好きですか」（前回-18.3 今回+0.8）「理科の授業の内容はよく分かりますか」（前回-19.4 今回-4.5）について差が大きく縮まった。前回（平成30年度（2018年度））の調査時の本校の状況から現在の生徒の状況の変化、可能な限り生徒実験・演示実験を実施していること（教材の整備が整ってきている。）、ICT機器の整備が整ってきたことで映像教材などを活用できていること、本校でとりくんでいる長南スタンダードや班を活用した授業づくりが学習状況の変化につながっていると考えられる。

○学習状況調査の「理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」や「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」「理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか」は、肯定的意見が全国と比較して-10%と低く課題が見られた。このことは、学力状況調査の「1（1）生活の中での知識の活用」、 「5（3）・8（2）実験方法の計画や実験条件の再検討」の全国平均との差とも関連していると考えられる。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（生徒質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きい特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	<p>○「朝食を毎日食べていますか」は、全国平均を10.9%下回っている。</p> <p>○「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」は、全国平均を8.2%上回っている。</p> <p>○「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」は、4時間以上と答えた人が全国平均を25.1%上回っている。</p>	<p>○朝食を毎日食べていますか <u><81.0/91.9></u></p> <p>○自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか <94.8/86.6></p> <p>○普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか <u>4時間以上 <41.4/16.3></u></p>
【家庭学習の様子】	<p>○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」は、全国平均を12.2%上回っている。</p> <p>○「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」は、3時間以上と答えた人は全国平均を14.2%上回っている。しかし、全くしないと答えた人は10.6%上回っており、二極化が見られる。</p>	<p>○家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む） <u><70.7/58.5></u></p> <p>○学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） <u>3時間以上 <24.1/9.9></u> <u>全くしない <15.5/4.9></u></p>

	<p>○「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」は、全くしないと答えた人が全国平均を15.7%上回っている。</p>	<p>○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）</p> <p style="text-align: right;">全くしない <25.9/10.2></p>
<p>【学校生活の様子】</p>	<p>○「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」は、全国平均を11.5%上回っている。</p> <p>○「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」は、全国平均を5.9%上回っている。</p> <p>○「学校で自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」は、週3回以上と答えた人が全国平均を5.2%上まわっている。</p>	<p>○学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか</p> <p style="text-align: right;"><86.2/74.7></p> <p>○学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか</p> <p style="text-align: right;"><77.6/71.7></p> <p>○学校で自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか</p> <p style="text-align: right;">週3回以上 <15.5/10.3></p>

本校の取組

◎これまでの取組

○研究授業を継続して行い、教職員全員で授業改革について研修・研究を行っています。昨年度より、「確かな学びを育む学校づくり」の実施校として授業改善に努めています。

- ・〈①「できた」を実感する全員参加の授業デザイン②主体的・対話的で深い学びの探求〉の2つを研究テーマに、研究授業を通じて多くの目で子どもの実態を見るとともに、授業の有効なしかけについて研究討議を行い、教職員間で共通理解を図っています。
- ・本年度は思考を深める力の育成をめざし、自分の意見や考えを交流するなど、思考を深めるための活動をすべての授業で取り入れています。
- ・年に2回相互参観月間を実施し、全教職員が、お互いの授業を参観する取組を行っています。相互参観シートに記入し、放課後に授業についての協議をしています。
- ・月に1度、教科会を実施し、PDCAシートに記入しながら、各教科での課題や重点的に取り組んでいることなどを話しています。

○全教職員が子どもたちの実態を把握し、個別の支援を含めたユニバーサルな授業をめざしています。また、教職員間で授業における共通認識をもてるように、長南中スタンダードを意識した授業に取り組んでいます。

- ・蛍光チョークによる授業のめあての明示 ・「授業のふりかえり」を実施
- ・本時の流れを黒板に明示 ・視覚支援をとり入れた「目で見てわかる」授業
- ・黒板周りに掲示物を貼らない等、集中しやすい環境のための教室整備 ・授業3分前の入室指導
- ・班やペア活動、ICT等を取り入れた思考を深めるための活動を実施

○授業の中で班活動を積極的に取り入れ、子どもたちの学力保障につなげています。

集団づくりの中心として班活動に重点を置いています。班活動を充実させることで、子どもたちのコミュニケーション力の向上や、ものごとにより自主的に取り組む力の向上をめざしています。また、授業でも班活動を取り入れており、子どもどうしの交流や言語活動の充実のための機会をつくっています。その他、授業展開に応じて、ペア学習などをとり入れ、充実した授業ができるよう努めています。

○学力向上にむけて、少人数指導・放課後学習・補充学習を効果的に実施しています。

- ・1年生への数学・英語の週1回の7時間目授業 ・放課後の学習会や長期休業中の補充学習会
- ・定期テスト前の放課後を利用した教科別質問日 ・手づくりの教材での朝の学習と毎日の宿題

○こ小中合同研を通じた校種間の連携・交流・授業規律の統一をめざしています。

長南校区では、はるかこども園・ひかりこども園・長南小学校・長南中学校で合同研修を年2回行っています。研修で異校種の教職員が交流することで、子どもたちの15年間の育ちを見すえて、各学校園で大事にするポイントを確認しています。活発な意見交流と討論が行われ、長南校区でめざす子ども像についての認識を深めています。また、小中の学びを円滑に接続できるようにしていくことをめざし、各教科で9年間を見通した教育課程を編成しています。

◎これからの取組

- ・市内統一アンケートや社会性測定用尺度等のアンケートを分析・検証し、授業改善に努めていきます。
- ・12月にも相互参観月間を実施し、全教職員が、お互いの授業を参観する取組を行います。
- ・引き続き班を集団づくりの中心に据え、支援教育の視点を活かしたユニバーサルな授業をめざします。
- ・「授業改善に資する学びの創造性連続講座」の取組として、小中連携した研究授業を実施する。
- ・クロームブックを用いた、個別最適化の学びを実施していく。
- ・小中の円滑な学びをめざし、各教科で9年間を見通した教育課程の編成をしていく。